

奈良県にホスピスの開設を！奈良県のがん医療をすすめるために！

奈良県のホスピスとがん医療を進める会

(旧:奈良県ホスピス勉強会)

平成 12 年「奈良県にホスピスがない、このままでは我が国で唯一のホスピス空白県になる」と柏木哲夫さんのお話を聞いて、市民活動グループを立ち上げた。当初 2 人で始めたが、現在会員数は 400 名を越えた。50 回を越える勉強会、年 1 回の講演会や、通算 3 回の署名運動を通じて、県民への緩和ケア啓発運動を行った。その結果、ホスピス設置、患者委員として県のがん医政策に参画するまでに至った。10 年間の活動のあゆみ、今後の課題を発表する。

私たちの運動の成果

ホスピスの開設

- ・平成 12 年、奈良県にはホスピスが、まだ 1 床もないことを知って、運動を始めた。
- ・定例の勉強会や講演会による啓発活動、3 回実施した県民署名運動等の結果、県内に 1 ホスピス病棟 (20 床) が開設された。
- ・これに加え、1 施設 (10 床) が現在建設中、県は 3 施設目の開設にも前向きになった。

緩和ケアの普及

- ・隔月開催の勉強会 (現在通算 52 回)、毎年開催のホスピス講演会 (600 ~ 800 名参加) により、県民の緩和ケア意識向上に寄与してきた。

奈良県がん対策推進条例の制定

- ・平成 20 年に本会会長が「県がん対策推進計画策定のためのワーキンググループ」の患者代表委員として参加してきた。
- ・奈良県の計画策定は遅く、全国最後平成 21 年によやく策定された。
- ・平成 19 年度、奈良県の「がん対策予算」は県民一人当たり 46 位であった。
- ・こうしたがん対策の遅れを取り戻すため、全国に先駆けて「がん対策推進条例」の制定を、乳がん患者会等とともに県に働きかけた。
- ・結果、全国都道府県で 6 番目に条例の制定を実現した。
- ・平成 19 年度、僅か 700 万円余で全国最低だったがん対策予算も、平成 21 年度には 1 億 1200 万円、22 年度には 2 億 2900 万円と急増した。

がん在宅医療連携のためのネットワークの検討

- ・ホスピス開設から、在宅ネットワーク形成により、在宅でもホスピスケアが受けられることを目標に、県では在宅医療連携を進めている。
- ・がん在宅医療推進のためには「地域連携クリティカルパス」の作成が重要であり、現在県の検討部会で検討中。
- ・未だ、ネットワークの検討には至っていないが、在宅医療を支えるネットワークの重要性を訴えるべく、先進地域 (長崎在宅 Dr ネット) から講師を招く (3/17 開催) など、啓発活動を強化している。

今後の課題

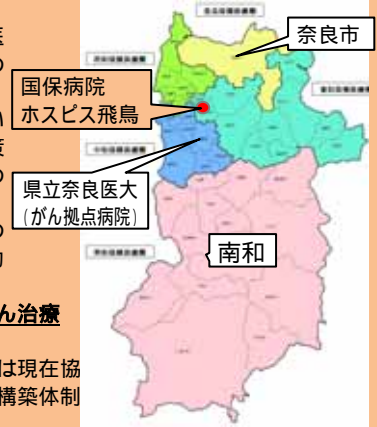
南和医療圏にがん診療連携拠点病院とホスピス緩和ケア病床の開設

- ・これまでの活動で、奈良県北部医療圏のがん診療と緩和ケア病床の整備に寄与できた。
- ・しかしが、広大な南和医療圏はいまだに空白状態であり、がん対策基本法の本質である「がん医療の均てん化」は実現していない。
- ・用に便利するように、南和に交通の便利な地区に開設するために努力したいと思っています。

在宅医療体制のために、在宅がん治療ネットワーク整備推進に協力

- ・地域連携クリティカルパスの整備は現在協議会で進行中だが、ネットワーク構築体制は遅れている。
- ・在宅医療体制の充実のため、一日も早い推進に協力して行く。
- ・啓発活動、県のがん医療対策向上への協力を継続・強化
- ・今後も、県「がん対策推進協議会」への参加をつうじて、し、緩和ケア普及向上体制の一層の向上、患者、家族の相談支援体制の強化等に注力。
- ・同時にがん対策を強化し、ホスピスケアを希望すれば受けることができる体制をつくるためには、広範な県民の理解と参加が必要 啓発活動の継続強化を進めていく。

奈良県の医療圏



ホスピス開設要望署名活動

「奈良県にホスピスを！ (平成 14 年 7 ~ 9 月) 署名総数 38,129 名。

平成 17 年 4 月、国保中央病院緩和ケアホーム「飛鳥」20 床開設。

「市立奈良病院にホスピス・緩和ケア病棟設置要望」(19 年 7 ~ 10 月)

署名総数 21,315 名 市立奈良病院に緩和ケア病床 10 床の設置計画へ

「県立奈良病院にホスピス・緩和ケア病床設置要望」(22 年 5 ~ 10 月)

署名総数 22,184 名 県知事「前向きに」、県議会質問に医療政策部長が「前向き」回答

運動開始前のエピソード

継続は力を実感

会が発足する以前の平成 13 年、奈良県のホスピスケアの現状を知りたいと、本会の現会長と委員の 2 名が奈良県医務課訪問した。

その結果は「奈良県医療計画にはホスピスについての記載はありません」県民からのホスピスに関する要望は聞いたことがない」ホスピスの開設を計画したり、希望する医療機関も聞いたことが無い」と回答された。「無い無い尽くし」に肩を落とし県庁をあとにしたことは鮮明な記憶。11 年の粘り強い活動によって、ここまで進んできたことに自らを評価している。同時に、謙虚に幅広い県民の皆さんと連帯し歩いていきたいものだ。

緩和ケア病床設置へ

「がん医療をすすめる会」が署名提出 知事「前向きに」

県立奈良病院建て替え



県立奈良病院は、今年 5 月に建て替え工事が完了し、新築が完了した。ホスピス設置を求め、署名運動の結果、県議会に提出された。知事「前向きに」回答された。県立奈良病院は、今年 5 月に建て替え工事が完了し、新築が完了した。ホスピス設置を求め、署名運動の結果、県議会に提出された。知事「前向きに」回答された。

会のホームページ上の掲示板に寄せられた声

はじめまして

(2002/8/29)

私は現在東京在住の女性です。実は母が末期がんだということを数日前に知らされました。悲しくて悲しくて泣いてばかりいましたがそうもしてられません。何とか穏やかな最期を願うばかりです。母は奈良在住で今は 病院に入院中ですがもう治療法がないということでのうち退院だそうです。

ホスピスで検索してこの掲示板にたどり着きました。この先どのような方法があるでしょうか？アドバイス宜しくお願いします。

(2010/6/1)

昨日、母が永眠いたしました。5 月 日に国保中央病院「飛鳥」に入院ができ、その後大変良い時間を家族、親戚、母の友人の皆さんと持つことができました。ただ、ここ 1 週間は肝臓がんが進み、肺炎、腎不全と他の内臓への負担もあり、昨日安らかに眠るように逝きました。幸いなことに痛みや苦しみは殆んどなく飛鳥での日々を送れたことに感謝しています。

お陰様で奈良県の一つだけのホスピスで、恵まれた環境の中で、素晴らしい先生や看護師さんの皆さんにお世話になり、母が最後の時間を送れたことは、本当にありがたいことでした。私としても最後の親孝行ができたかと思えます。

当会の運動の経緯、10 年間に開催した講演会・勉強会の講師やテーマ

ホスピス医、ホスピスナース、チャプレン、患者さん本人、ご遺族... 多くの方に講演をいただき、勉強会で話題提供をお願いしてきた。日本財団、個人からの援助もいただいた。すべての方に心より感謝である。

本会のこれまでの活動の詳細、講演会・勉強会の講師やテーマについてフリーディスカッション時 (4 月 2 日 3 日) にプリントを用意し配布します。本会のホームページもご参照ください

奈良県のホスピスとがん医療をすすめる会 (会長: 馬詰真一郎)

URL : <http://nara-hospice.org/>

〒636-0071 北葛城郡河合町高塚台 1-8-1 奈良ニッセイエデンの園内

Email : baz@bird.email.ne.jp FAX 0745-33-2101